

分子標的治療における AE 対策

YURCC パッケージ

ポケット版

[第2版]

分子標的薬による皮膚障害対策

TKI の皮膚症状としては薬疹と
手足症候群 (HFS) がある。

1. 薬疹

一般薬の薬疹と同様の対応になる。

ソラフェニブの場合、投与当初にみられる軽度の紅斑は自然に消退することも多い。

2. 手足症候群 (hand-foot syndrome: HFS)

- ① HFS に関しては患者自身の自己管理で多くの場合対処可能であり、「分子標的薬を服薬中のスキンケアについて」(本文参照)のごとく自己管理を指導する。
- ② 国内第 II 相臨床試験ではソラフェニブ 55% (72/131), スニチニブ 65.4% (53/81) に発現。
- ③ 半数が投与開始後 3 週間以内に発症しており、早期に出現することが多い。
- ④ 感覚障害, 疼痛が皮膚症状に先行することが多い。
- ⑤ 休薬により消退する。
- ⑥ 発症機序については不明。

予防対策

- ① 加重, 圧迫, 擦過などの物理的刺激や温度刺激を避け, 保湿を行う。
- ② スキンケア 分子標的薬内服前から開始する。(本文「分子標的薬を服薬中のスキンケアについて」参照)
- ③ 保湿 分子標的薬内服開始と同時に保湿クリームを使用する。冬場など, 乾燥しやすい時期, 高齢者, 乾燥肌の方は保湿剤を頻回に使用する。
- ④ 履物 しめつけない, 柔らかい素材のものを選ぶ。発赤や痛みのある場合は, 足底に衝撃吸収素材やスポンジ素材の使用。
- ⑤ 運動 物理的刺激を避けるため, 足に負担のかかるジョギングなどは禁止。

治療の原則

| | 症状 | 対処法 |
|-----|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 初期 | 痛み, 違和感 | 予防対策 |
| 軽度 | 疼痛を伴うか, もしくは伴わない最小限の皮膚変化または炎症(紅斑など) | 予防対策 保湿クリーム |
| 中等度 | 日常生活が制限される皮膚変化(角化, 水疱, 浮腫, 出血など)または疼痛 | 保湿クリーム 疼痛強いときは 消炎鎮痛剤 局所ステロイド |
| 重度 | 日常生活が制限される疼痛 and/or 潰瘍性皮膚炎もしくは皮膚変化 | 局所ステロイド 減量・休薬 |

分子標的薬による消化器症状治療のアルゴリズム

